

巻 頭 言

医療の高度化、医薬分業の進展等に伴う医薬品の安全使用や薬害の防止といった社会的要請に応えるため、薬剤師養成のための薬学教育は平成18年度に6年制となりました。生命科学の著しい進歩により薬学領域で必要とされる知識と技能は膨大となっています。また、豊かな人間性をもった医療人の養成も国民からは強く求められています。薬剤師は病院や地域において、医療チームの一員として種々の問題発見・解決に取り組み、より質の高い医療を提供することが期待されています。

平成18年度から始まった6年制薬学教育は、平成14年度に策定された「薬学教育モデル・コアカリキュラム」と「実務実習モデル・コアカリキュラム」に基づいて構築されました。平成30年度の5～6年次の学生は従来のモデル・コアカリキュラムに準拠した教育プログラムに従って学修します。一方、1～4年次の学生は文部科学省から提示された「**薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版**
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm（以下、改訂コアカリ）」に基づいて本学で新たに策定したカリキュラムに沿って学修を進めます。改訂コアカリでは、6年卒業時に必要とされる「**薬剤師として求められる基本的な資質**」として、以下のような「10の資質」が提示されました：①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力。一方、本学薬学部のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）で掲げた「7つの資質・能力：①**プロフェッショナリズム**、②**コミュニケーション能力**、③**患者中心のチーム医療**、④**専門的実践能力**、⑤**社会的貢献**、⑥**薬学研究と自己研鑽**、⑦**アイデンティティ**」は、改訂コアカリに先駆けて本学独自に策定し、平成28年度に見直したもので、「10の資質」を包含した内容です。ここに挙げた「7つの資質・能力」を卒業時には身につけていられるようカリキュラムを構築しています（カリキュラムポリシーを参照）。学生の皆さんは「7つの資質・能力」を卒業時まで十分に身につけることを目標に学修に励んでください。

本学の大きな特色である臨床教育、チーム医療教育プログラムは、毎年内容を充実

発展させています。平成27年度からは4年次の後期2月より「**病院実習1**」を開講することとしました。これにより本学の病院実習は全国の薬系大学の中で最も早く始まり、実務実習期間（病院17週間、薬局11週間）も最長となりました。この期間延長を活用して平成28年度からは5年次の「**病院実習2**」において、患者担当制の臨床参加型実習**クリニカルクラークシップ**を導入しています。5年生全員が本学の附属病院において、1病棟4週間で3病棟を回り、各病棟で患者を担当しながらチーム医療に参画し、実践力を培うプログラムです。

平成18年度から構築してきた本学附属病院を中心としたチーム医療教育プログラムに加え、平成26年度からは新たに文部科学省の支援を受けて「在宅チーム医療教育推進プロジェクト：大学と地域で育てるホームファーマシスト～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実践できる薬剤師養成プログラム～」に取り組んでいます。改訂コアカリに準拠した平成27年度の入学生からは、本学独自の在宅チーム医療教育プログラムを開発し、体系的かつ段階的に導入しています。平成28年度からは2年生を対象に学部連携 PBL チュートリアル「**在宅医療を支える NBM と倫理**」を開講し、平成29年度からは3年生を対象に、高齢者とのコミュニケーションや在宅医療で必要とされる基本的支援スキルを学ぶ「**チーム医療による薬物治療と在宅ケア**」を開講しました。平成30年度は4年生を対象に学部連携 PBL チュートリアル「**在宅シミュレーション演習**」を開講します。病院でも地域でも発揮できる**チーム医療実践力**を身につけて下さい。

本学薬学部は薬学教育改革に積極的に取り組み、「**至誠一貫**」の理念のもと、医・歯・保健医療学部と密接な連携を取りながら、医療の担い手として社会に貢献できる薬剤師を育成する特色あるカリキュラムを実行しています。本学のカリキュラムと環境を大いに活用して**主体的に自己研鑽に励み**、昭和大学の薬学部生として医療に貢献する能力を身につけてください。この一年間の皆さんの成長を心から期待しています。

平成30年4月

薬学部長 中 村 明 弘